

阪神カウンセリング・ラボニュースレター



ウナギの話(4)

ラジオ番組「武田鉄矢今朝の三枚おろし」で聞いた話をもとに、7月号から続く、ウナギの話

ウナギが 5000km の正確な旅を可能とする理由

- 9月号からの続き -

ものの存在の根底に何があるかは、興味のあることです。アインシュタインは、宇宙という大きな法則、相対性理論などを提唱した偉大な科学者ですが、素粒子等の微細な存在にも興味を持っていました。彼は、素粒子などのものの背後には何かしらのとてつもないものがあると考えており、それを「愛」と言ったそうです。彼が、愛を説くキリストの宗教世界にいたことを考えれば、ものの根底にある大きな存在を「愛」と考えたことはよくわかります。

最新の宇宙物理学では、このものの根底にある存在を、ゼロポイントフィールドと名づけて、その特徴をいくつか挙げています。これも仮説ですが、いくつかは実験されたり、論文で説明されたりしているそうです。 ゼロポイントフィールドの特徴とは、

- 1) 宇宙誕生からこれまでのすべての記憶を持っている。
- 2) 一瞬にしてどこへでも移動する。
- 3) 一度絡み合ったゼロポイントフィールドを持つ素粒子は、分離しても同じ反応をする。

このうち、3)の、一度絡み合ったものは、分離しても同じ反応をするという特徴は、実験で確かめられています。素粒子を分離して、その一つを IOOkm ほど離れた島に離し、一方を刺激すると、もう一方の素粒子は同じ反応をしたという実験です。

ものの根底にある何かしらのものすごい存在を、アインシュタインは「愛」といい、最新の宇宙物理学あるいは量子物理学では、「ゼロポイントフィールド」と名づけています。面白いことに、これを研究した最新の宇宙物理学者が、「ゼロポイントフィールド」のことは、すでに仏教の経典に書かれていると知り、仏教に非常に興味を持っているという話を聞きました。彼が見つけた仏教の経典の中身とは、おそらく、「般若心経」に書かれている「空」ではないかと想像しています。彼がみた経典がそうでないとしても、般若心経の「空」とは、この宇宙の根底にあるとてつもないエネルギーを意味しています。

そのエネルギーが、宗教では神の一撃、科学ではビックバンによる、エネルギーのとてつもない回転と衝突で、宇宙の中の、ヒモ、素粒子、原子、分子、細胞、各器官、肉体という進化を遂げているのです。この過程のすべてのものは、どれも、ゼロポイントフィールドから連続して、このエネルギーを抱えているはずです。

|| 月号にまたまた続く(今度こそ最終回) -

阪神カウンセリング・ラボ https://www.hanshin-cl.com/

*梅田相談室

〒530-0014 大阪市北区鶴野町 4-11 朝日プラザ梅田 9 階 910

Tel/Fax **06 - 6147 - 2533**

E-mail hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp

*明石相談室

〒673-0891 明石市大明石町1-7-4 白菊グランドビル512

Tel **078 - 917 - 6880**

